

部 誌

発行：ののうち誠後援会
〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670
電話・FAX 0852-52-3117
Eメール nonouchi@mable.ne.jp
ブログで日々の活動を紹介しています。フェイスブックもやっています。
<http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

後援会だより—October

発行日:2024年(令和6年)10月27日

ののうちの まこと

VOL
53

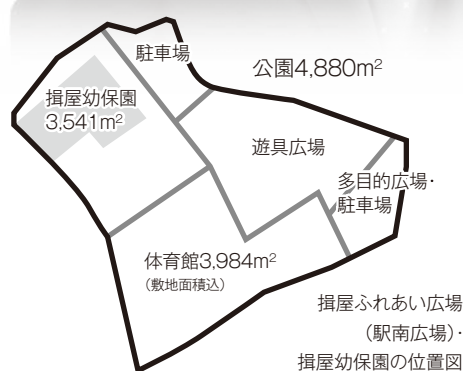
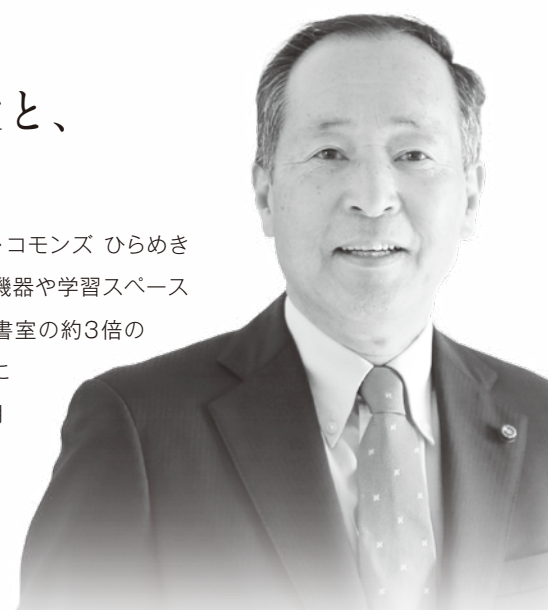
揖屋小にラーニングコモンズ開設と、 揖屋幼保園・広場の移転計画

揖屋小学校長寿命化改修工事の一環で整備を進めていた「ラーニング・コモンズ ひらめきルーム」が完成し、2学期から利用が開始されました。図書館の機能の上にIT機器や学習スペースなどを備えた総合的な自主学習のための環境を備えています。今までの図書室の約3倍の広さで、「調べる・話し合う・まとめる・発表する・振り返る」などの場が一か所に集約されています。全国的に有名になった東出雲町の「学校図書館活用教育」の延長として中国5県の公立小中学校では初のモデル設置。なお、平成12年に新校舎が完成した東出雲中学校には、この「ラーニング・コモンズ」と同様な機能を持つ広い図書室があります。

また、旧東出雲ふれあい会館と旧支所(旧役場)を取り壊し、その跡地には揖屋幼保園と揖屋ふれあい広場の遊具広場等が移転新設することになりましたが、その配置が決定しました。旧揖屋小学校があったなじみ親しんだ場所が生まれ変わります。工事は令和6・7年度に上記2施設を取り壊し、令和8～10年度に実施設計と建築工事を進め、令和11年度に供用開始する予定です。なお、多目的広場は駐車場として利用し、スケボー場は設置しない予定です。



ラーニングコモンズの学習スペース



令和5年度決算などを可決・承認

9月定例市議会

10月1日に、29日間の会期を終え9月定例市議会が閉会。本会議では、議案51件、令和5年度決算14件、陳情2件(陳情第59号「島根原発2号機再稼働中止を求める陳情」・陳情61号「中国電

力に対して島根原発2号機の再稼働中止を求める陳情」)、陳情1件(陳情第60号「南殿町に建設中の19階建てタワーマンション」について)の委員長報告・質疑・討論・採決の順に進みました。

電子評決の結果、議案51件と決算14件は可決され、陳情2件(陳情第59号・陳情61号)は委員長報告どおり不採択

となり、陳情1件(陳情第60号)は委員長報告どおり継続審査と決しました。

また、松政クラブが起草した議員提出議案「半島振興法の延長及び充実に関する意見書について」が諮られ、全員の賛成で可決しました。(予算金額や提出議案の詳細は市ホームページや市報等をご覧ください)

最近の活動から

松政クラブの要望活動や勉強会開催

市議会松政クラブでは、会派研修として7月22日から24日まで東京を中心に国会議員要望や勉強会を実施。22日は、埼玉県東松山市立東松山ぼたん園の運営等を視察研修。同園は関東有数のぼたん園で松江市と同じぼたんの花を市の花とし、指定管理は「由志園アグリファーム(株)」で、同社の取組を含めて視察しました。

23・24日は、島根・鳥取県の地元選出の国会議員の事務所を訪れ、ご本人又は秘書の方に要望書(新幹線など11項目)を手交しました。また、勉強会では、松江駅前再開発関連の「都市再生緊急整備地域制度」など2件の研修をしました。講師は、内閣府地方創生推進事務局幹部などで、今松江市で一番の課題を学習。すぐに役立つ事業の知識取得で非常に勉強になりました。



石破 茂事務所も訪問

町民体育大会とSMJライブ

9月22日は関係事業が2件。東出雲町体協出雲郷支部主催の「第64回出雲郷地区町民体育大会」を雨の影響で出雲郷小学校体育館で開催。今回のテーマは「防災」とし、体協の何気ないふれあいが有事の際の近所の助け合いにつながると、体協支部長の野々内は開会式で挨拶しました。

また、「山陰ミュージックジャンボリー野外ライブ」を市内広場で開催。主催は、山陰ミュージックジャンボリー実行委員会(SMJ)で、野々内が委員長を務めています。気持ちの良い風に吹かれながら、広島・鳥取・島根から6団体に出演していただき、最高に盛り上がったライブとなりました。



体育大会での防災訓練



SMJ実行委員長としてあいさつ

後援会のお知らせ

ののうち誠後援会にご加入いただき、一緒にまちづくりをしていきましょう。この度後援会だよりvol.53を発行いたしましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

ののうち誠 プロフィール

昭和25年生まれ 出雲郷小学校→東出雲中学校→島根県立松江農林高校→東出雲町役場就職(平成23年3月に町参事を最後に退職)→平成23年8月松江市議会初当選、平成25年4月2期目当選平成29年4月3期目当選、令和3年4月4期目当選

ホームページ、
ブログはこちらから



makoto 部 誌

農政会議東出雲支部総会を開催

8月7日、野々内が支部長を務めている「松江市農政会議東出雲支部総会」を「ヨリアイーナ東出雲」で、来賓や会員の皆さんを迎え開催しました。野々内は、最近の農業に関する事柄として、コメ不足の背景と後継者問題などの農業経営の課題に触れ、継続していける農業の多くの政策は国にあることなど、今後の農政への取り組みを交えて挨拶を行いました。



挨拶する野々内

宍道湖・中海問題等対策特別委員会の行政視察

野々内が委員長を務める「市議会宍道湖・中海問題等対策特別委員会」の行政視察を、8月21日と22日に京都市と岐阜県大垣市で行ないました。

京都市では「桂川嵐山地区可動式止水壁整備事業」を現地視察。講師は、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所の皆さん。嵐山地域では度々の洪水・浸水被害から、学識者の委員会・地元との調整を行い、浸水被害を速やかに軽減し普段は景観を損なわない「可動式止水壁による左岸 水対策」などを実現しました。本市の大橋川左岸・東本町護岸への期待を膨らませました。

岐阜県大垣市では「大垣市かわまちづくり」を視察。河川や豊かな地下水を生かした産業の歴史があり、国土交通省の「かわまち大賞2023」を受賞し、水辺を生かした賑わいの場の創出という優れたアイデアと市民の活性による活動を行なっていました。

松江市でも、「宍道湖・大橋川かわまちづくり事業」が進んでいます。今回の視察では、ハード整備に合わせてのソフト事業の展開・組織や市民の活性化を学習しました。松江市での取り組みが急がれます。



一番深い所の可動式止水壁を仕込まれた固定部

11月定例議会予定

11月 26日(火) 本会議(会期の決定、提案説明)

12月 2日(月) 一般質問
3日(火) 一般質問
4日(水) 一般質問・議案質疑・委員会付託
5日(木) 総務委員会・予算委員会総務分科会
6日(金) 教育民生委員会・予算委員会教育民生分科会
9日(月) 経済委員会・予算委員会経済分科会
建設環境委員会現地視察
10日(火) 建設環境委員会・予算委員会建設環境分科会
13日(金) 予算委員会(分科会長報告・質疑・討論・採決)
18日(水) 本会議(委員長報告・質疑・討論・採決)、閉会

◆後援会事務局◆

〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670 TEL・FAX／0852-52-3117
Eメール nonouchi@mable.ne.jp <http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

通算35回目的一般質問です

9月10日の通算35回目的一般質問は、一問一答方式で行いました。記事は文面の都合上簡潔にしています。

Q1 農業の担い手など
農業環境を問う

（1）日本の食料自給率は38%の現実、米価は総務省調査を基に昭和30年と現在の消費支出を元に現在価値に換算すると3分の1に下がっており、生産者が成り立たない現実が続いている。農業の将来を見直すよい機会だと考える。

松江市の農業実態を農林業センサスでみると、総農家数は平成22年より約3割減少し、経営耕地面積も、平成22年より約3割減少している。

小規模農家ではサラリーマンに近い収入には程遠く、努力が収益に比例しない現実から離農が急速に進んでいるのではと推察する。

全国的にコメ不足が問題化し、今までの生産減は、労働と対価の差から、生産意欲につながらなかったことも原因と思うが、コメの生産と担い手の育成の本市の考え方を伺う。

桑垣産業経済部長 将来もコメの生産を続けるためには、生産意欲につながる米価であることが必要と考えている。あわせて市場ニーズの高い品種や高温耐性のある品種の生産に切り替えるなど、需要に

応じたコメの生産が益々必要になってくると考えている。

また担い手の確保育成は、重要な課題であると認識。農林大学在校生や定年後に農業を始める方、Uターン者などの多様な人材について、就農者確保を図るとともに、就農希望者の就農前の相談から就農後のフォローアップまで継続した支援を行うことで、人材の育成を図る。

（3）市内マーケットで地場野菜コーナー以外の野菜売場で、島根県産のキャベツやタマネギなどの野菜を見かけることは稀だ。野菜の地産地消について考えを伺う。

桑垣産業経済部長 野菜の地産地消は、大規模生産の松江市産の冬季キャベツは、その50%以上が中海宍道湖大山圏域に出荷され、残りは関西方面に出荷。また、島根県産のタマネギは、65%が圏域に向け出荷され、残り35%が広島県や福岡県などに出荷をされている。今後も「儲かる農業」の実現に向け地産地消を進めたい。

（4）認定農業者など担い手への支援は、大型化も含めて今後さらに必要と思う一方、多くを占める担い手以外の農家にも光を当てるべきだと考えるがいかがか。

桑垣産業経済部長 認定農業者等の担い手以外の農家には、「市農業振興協会」を事業主体にJAの産直出荷協議会会員を対象に、農業機械購入への補助を今年度から実施。

また、スマート農業活用が有効であり、補助制度の拡充を検討したい。

（5）農業政策の多くは国にあるが、県や市にもできることもあると考える。循環型社会へと進化するための国・県への働きかけが求められるがいかがか。

上定市長 人口減少にあつて、農業を持続可能なビジネスモデルとしていかに構築していくかを考えている。

移転するといった選択肢も考えられることから、必要に応じて相談に応じていきたい。

なお、新規工業団地は、現在計画の中尾地区の次の候補地についても、速やかに検討を図る。

（Q）先般決定の「揖屋千拓工業団地」は、地元では分譲の熱い目が注がれてきたが結局1社への売却となった。制度緩和や新たな近場での工業団地を求めていくことの考えを伺う。

桑垣産業経済部長 今回の新企業団地とあわせて、次の企業団地は、既存の企業と市外からの企業など複数あることも総合的に勘案して場所検討していく。



一般質問する野々内

Q3 河川水路の流末整備について

今年7月豪雨では市内でも床上浸水などの被害が発生し、河川整備が待たれる。一方、東出雲町でも慢性的な浸水被害に悩まされている。

今年度の当初予算でも農業生産活動に取り組んでいるが、本市だけで解決するのは難しい課題もある。国では合理的な販売価格を形成するための法制化が現在検討されていると聞く。こういった動きもいつか

り捉えながら、必要な要望については国県に対して実施し、JAや県などの関係機関と連携を図って持続可能な農業を構築してまいりたい。



採算の取れない稲作が続いてきた

Q2 既存企業のための
企業団地の建設について

（1）本市では7月に「新たな企業団地の整備計画を発表、新たな雇用創出を図ることを目的の計画には異論はない。一方で、既存の企業の操業地の問題にはどのように考えているか。東出雲町の例では、揖屋、崎田地区は都市計画用途地域は工業地域であり、事務所・工場・倉庫が沢



埋川に設置の除塵機

井上都市整備部長 埋川流域では、近年、排水計画以上の降雨に見舞われ、排水出口となる中海の水位が高い状態が引き続いており、自然排水ができない状況も続いていることで度々浸水被害が発生をしていると考えている。

本市としても埋川流域の抱える根本的な問題の解決に向けて、昨年度から現地調査を行っている。今年度は対策項目の抽出を行い、来年度からは対策の具体的な内容を定める予定だ。

洪水防止の抜本的な対策には相当な時間と費用を要すると考えており、令和3年の豪雨以降、当面の応急対策として、埋川の浚渫、出雲郷排水機場の排水ポンプ増設、早い段階での排水への排水ポンプの遠隔操作化、逆流防止施設の設置などを進めている。今年度は水路のかさ上げによって浸水対策を実施する予定だ。